

IPv6に関するアンケート調査結果報告

(サマリー)

2004年10月

IPv6普及・高度化推進協議会

調査概要

1. 個人向け調査

調査名：「第2回 IPバージョン6(IPv6)に関する調査」

調査対象：goo リサーチ一般モニター（一般個人を想定）

調査方法：goo リサーチによるクローズド調査

回収数：2,201 票

調査時期：2004年5月13日～5月18日

調査項目：

1. インターネット利用状況
2. IPv6 に対する認識
3. IPv6 の普及に必要な要因について
4. IPv6 普及・高度化推進協議会について

2. 企業向け調査

調査名：「第3回 IPバージョン6(IPv6)に関する調査」

対象：goo リサーチビジネスモニター（一般企業を想定）

IPv6 普及・高度化推進協議会会員

調査方法：goo リサーチによるクローズド調査

回収数：1,119 票（一般企業）

85 票（会員企業）

調査時期：2004年5月13日～5月26日

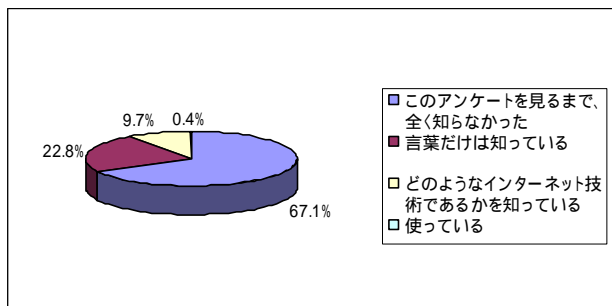
調査項目：

1. 回答者について
2. IPv6 への期待とニーズについて
3. IPv6 の普及に必要な要因について
4. IPv6 製品の普及時期について
5. 協議会が取り組むべき活動について

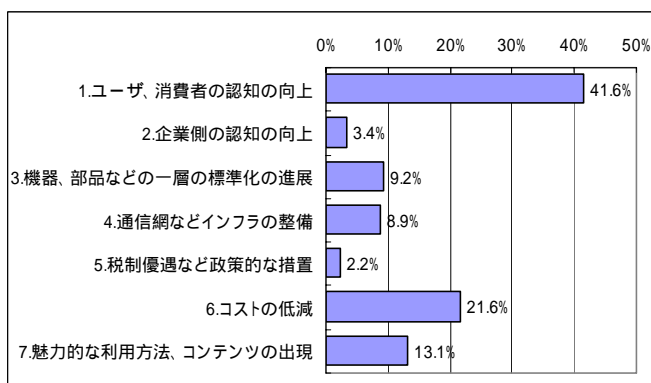
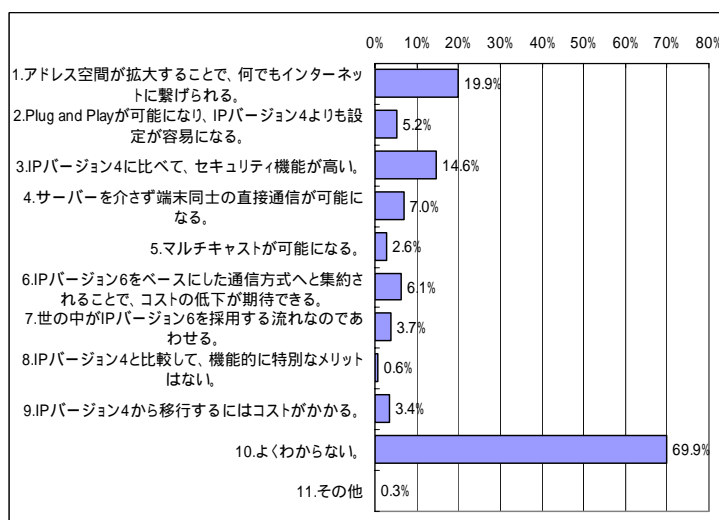
調査結果要約

1. 個人調査より

IPv6 については、アンケートを見るまでまったく知らなかったという回答者が 7 割近くあり、具体的な内容を知っている回答者は 1 割に満たなかった。

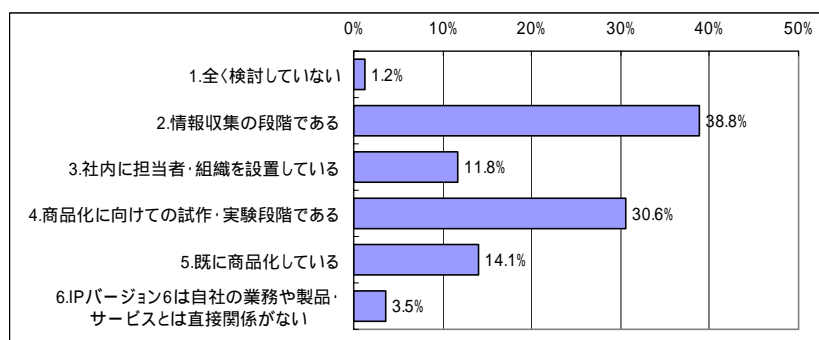
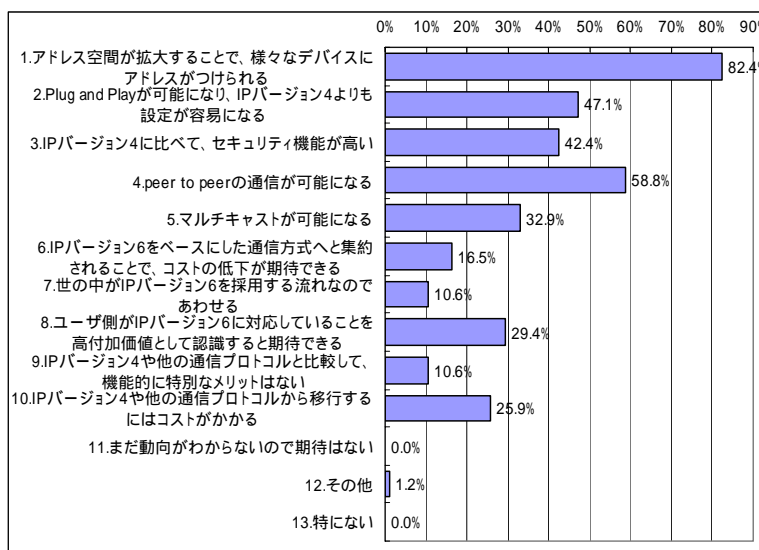


そのため、IPv6 に対する期待でも、「よくわからない」とする回答が 7 割近くと最も多くなっており、IPv6 の普及のためにはユーザ・消費者の認知が大切だとする回答が多かった。

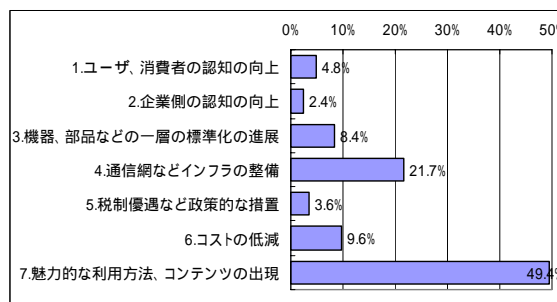


2. 企業調査 (IPv6 普及・高度化推進協議会会員企業) より

IPv6 普及・高度化推進協議会会員企業向けの調査では、IPv6 に対する期待では、「アドレス空間が拡大することで、さまざまなデバイスにアドレスがつけられる」「peer to peerの通信が可能になる」など、製品やサービスを開発する上でのメリットになる機能に回答が集まった。実際、すでに IPv6 対応製品を商品化しているとする回答が 14%あり、その他開発に向けて具体的な行動に移っていると回答も 4 割以上あった。

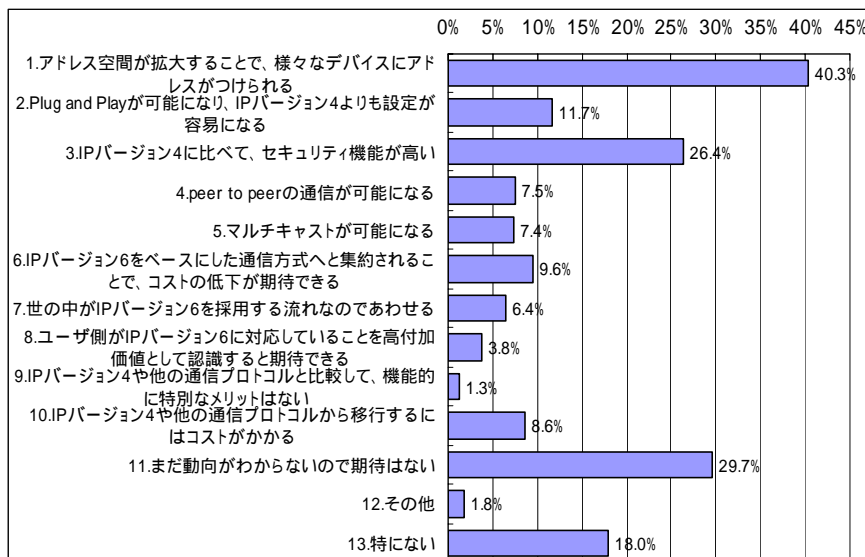


また、会員企業向け調査では、IPv6 の普及には「魅力的な利用方法、コンテンツの出現」や「通信網などインフラの整備」が大切とする回答が多かった。



3. 企業調査（一般企業）より

一般企業向けの調査では、IPv6 に対する期待では、「アドレス空間が拡大することで、さまざまなデバイスにアドレスがつけられる」ことの他に、セキュリティ機能が高いことに回答が集まった。また、「動向がわからないので期待はない」とする回答も多かった。



また、IPv6 の普及には、「ユーザ、消費者の認知の向上」の他に、「コストの低減」「通信網などインフラの整備」「機器、部品などの一層の標準化の進展」など、実際に企業が IPv6 を導入する際にハードルとなるとと思われる点に回答が集まっているのが特徴的である。

